

第64回 令和7年7月15日(火)

「逃げる・やめる・避ける」ことについて。

私が子どものころ超音速旅客機「コンコルド」が開発されたことがあります。その姿はまるで白鳥のようでスタイルもよく、いずれは航空業界の主役になるとと言われていました。

しかし開発に莫大な費用が掛かることに加えて燃費も悪く、1回の乗客収容人数が少ないので開発費がペイできないとわかりました。

それでも今までつぎ込んだ開発費が無駄になることを嫌がり、研究開発はいつまでも継続され、開発中止までに莫大なお金がかかりました。撤退できなくなってしまった事例です。

日本人は「逃げる・やめる・避ける」ことにものすごくネガティブなイメージを抱いています。雇用契約がシンプルなアルバイトさえなかなか辞められません。やりたくない仕事を嫌々続けていることで誰が喜ぶのでしょうか。雇っているほうも雇われているほうも悲劇です。

現代は会社のほうが先に寿命がきてしまうことも少なくありません。いつまでもいつづけたために会社と一緒に生になってしまった人もいます。

時代の変化を予測したうえで「逃げる・やめる・避ける」ことを選択するのは一つの戦略です。このワードを罪悪感で受け止める必要はまったくないと考えています。

解雇についてもアメリカはかなりポジティブです。先の見えない会社で働くよりは解雇されて退職金をもらい、失業保険の出ている間に次の職を見つける。日本の場合は解雇と聞くと不必要と言われたような人格否定的なことばに感じられます。

それでも日本の若年層は転職における抵抗感が大分なくなってきた。いまは大卒新人のおよそ3割が離職する時代となっています。ハイクラス転職などという言葉が生まれているように、職を変えて活躍する人材が増えています。

そもそも人間にとってもっとも大切なものは何か。それは無くすと取り返せないものです。お金は一度無くしても取り返せます。地位や名誉も同じ。絶対に取り返せないのは時間です。

実は1人ひとり与えられている時間は違います。だれもが平均寿命まで時間があると思ったら大間違입니다。特に若いころの時間はあっという間に過ぎ去ってしまいます。

「逃げる・やめる・避ける」は決して悪いことではありません。コンコルドの過ちを繰り返さないためにも、かけがえのない時間を優先して考えてください。

あたりまえですが今が一番若いので、やめるのも今、新しいことに挑戦するのも今が一番時間があるのです。